

## 平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	金属人工格子ルネサンス
研究代表者	高梨 弘毅 (東北大学・金属材料研究所・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、金属人工格子についてスピントロニクス視点で再評価し、その有用性を明らかにすることを目的としており、スピンに関わるオービトロニクス、反強磁性結合、カロリトロニクスの3点に着眼して検討することとしている。</p> <p>人工ナノ構造による金属材料創製の体系化された研究提案であり、応募者らのチームの有する高い金属人工格子作製能力に裏打ちされた研究活動実績を踏まえた内容であることから、大きな成果が期待できる。</p>